

事業実績報告①

団 体 名	杉並まちづくり交流協会
代 表 者 ・ 連 絡 先 (住所・Tel・Fax 等)	荻本和利 杉並区宮前 3-22-16 電話：090-6829-1461
活 動 テ ー マ	「まちはく 2021」の開催と「まちサロ」の実施
団 体 紹 介	<p>・「まちはく」(旧まちづくり博覧会)と「まちサロ」(まちづくりサロン)の2つの活動を柱として、まちづくりやまちを調査・考える団体の交流と連携を図ることを進めている。まちづくりに関わる中間支援的な役割を担っていく働きを持つことが、一つの目標である。まちはくの開催に向けては実行委員会を組織し活動を行っている。 (実行委員 10名)</p> <p>・「まちはく」は年1回のペースでこれまでに24回の開催を行ってきた。(2021年3月時点)ここ数年は約50以上の団体の参加を得て、身近な生活や団体交流、社会福祉、防災などをテーマとして掲げ取り組んでいる。(会場は阿佐ヶ谷地域区民センター)各団体の活動紹介の展示の他に、各年のテーマに沿った講演、ディスカッションの場を設けて団体交流に努めている。</p> <p>・2020年(2019年度)はコロナ禍の影響で中止となった。「街の色彩を考える」という興味深いテーマを設定したが、開催はかなわなかった。このテーマは継続して暖めて、再挑戦したいと考える。</p> <p>・2021年(2020年度)は会場を産業商工会館に変え、規模を縮小しての開催となった。参加団体数は15団体。参加団体の活動紹介と交流に主眼を置いた内容での開催となった。2部の団体交流会(ねるとん交流会)にも予想以上の参加をいただき、新しい団体マッチングの方法なども取り入れた交流の場となった。</p> <p>・私たちはまちづくり助成金をいただいている1団体ではあるが、他の助成団体との連携・支援を行うことも大きな役割である。この3年、若手の建築家チームとのまちはくにおいての連携(展示や建築のセッション)はあったが、他の団体との連携・支援は十分ではない。まちサロへの参加を促すなど、今後の課題として取り組んでいきたい。</p>

活動記録年 月	令和2年4月1日～令和3年3月31日の活動内容を記入してください。 ただし、提出日から令和3年3月31日までは <u>予定</u> を記入してください。
<p>定例会</p> <p>まちサロ</p> <p>・ 9/26</p> <p>・ 11/14</p> <p>まちはく</p> <p>リモート説明会 (2/26)</p>	<p>・ 月 1 回、第一金曜日午後 7 時からの開催</p> <p>・ 本年度は、コロナ禍の状況の中で、5～7 月は Zoom によるリモート会議を行った。</p> <p>・ 5～8 月期の主な議題としては</p> <p>① コロナ禍における当協会の活動方針の検討</p> <p>② まちサロの計画立案（リモートの活用を含めて）</p> <p>③ 若手実行委員（4 名）のまちづくり及びコロナ禍の中での生活・仕事の関心事の発表とディスカッション</p> <p><まちサロの計画と実施></p> <p>・ 9 月と 11 月にリモートを活用してのまちサロを計画 「リモート街歩き」 ここでのトライアルが、まちはく 2021 にもつながった。</p> <p>・ 第 1 回トライアル</p> <p>・ 第 2 回トライアル</p> <p>・ リモート基地局（ルート指示などを行う）と街歩き組（スマホで歩くコースを写しながらの街歩き）との情報交換や街についてもおしゃべりが結構楽しかったと好評。</p> <p><まちはく 2021 : 3/7（日）産業商工会館にて実施></p> <p>・ 3/5 より先行展示を 4 団体で実施。（やってみるんだ展、若手建築家展、西荻みなみ活動紹介、かるたプロジェクト（ウズベキスタン・パキスタンかるた紹介）</p> <p>・ 3/7 のメインのイベントには 15 団体が参加</p> <p>・ 参加者：約 220 名</p> <p>・ 本年の特長としては、地域での活動団体（西荻みなみ・荻窪センター協議会や大人塾 2 コースの有志（荻窪・方南和泉）の参加があったことがあげられる。地域に根差したまち発見やまちづくりの活動紹介は興味深かった。</p> <p>・ それらの団体が映像展示を準備してくれたことも好評であった。</p> <p><まちはく 2 部：「ねるとん交流会」></p> <p>・ プレゼン団体を 5 団体に絞っての交流会を開催。各団体の活動や今後の課題・ニーズを紹介の後、会場参加の人々（約 30 人）を加えての団体マッチングを行った。</p> <p>・ プレゼン以外の参加者、参加団体が多くいたこともあり、団体マッチングは興味深く、各団体とも 10 以上の交流希望があった。今回のように参加団体がメインとなる 2 部の構成はとても良かったのではないかと思います。</p> <p>・ イベント全体を通して、「開催できて良かった」「やって良かった」という声を多く聞いた。コロナ禍の閉塞感の中で、予想を超える来場者があった背景にはリアル交流への期待、要望があったと思われる。</p>

今後の活動の予定と抱負

<まちはく について>

・ こんかいのまちはく 2021 は会場もこれまでの会場（阿佐ヶ谷地域区民センター）と比較すればかなり狭く、参加団体を絞ったこともあり規模は縮小された。しかし、結果的には1Fと地下と分けられたがまとまりのあるイベントとなったと思う。

・ これまでは、地域の協議会や大人塾との連携は少なかったが、今回コロナにより、それらの団体の発表の場がなくなったこともあり、まちはくでの展示を持ちかけた。各団体ともまちづくりには関心が高いこともあり、まちはくらしい展示を行うことができたと思う。幸い、協議会や大人塾関連のメンバーとは面識もあるので、次年度以降も継続して行きたいと考える。

・ 第2部の交流会はまちはく参加団体の交流に主眼を置く計画で進めたが、その意図は参加者にも伝わり、効果もあったものと思う。会場や時間の都合で選抜5団体を中心した交流であったが、後半は参加者全員が参加できる工夫もあった。5団体との交流を望む声が様々な団体からあがったことは、各団体の今後の活動に向けての声援であり、具体的な連携にもつながるものであったことと思う。

<まちサロ について>

・ 地域の団体の交流、また、まちはくのテーマ・内容につなげるものとして位置付けていきたい。これまで開催が下期からということが多かったが、できるだけ前倒しにして進めていきたい。先のまちはくで展示参加をしてくれた大人塾の2コースの活動紹介をしてもらうことなども考えたい。また、本年度も引き続き、この「コロナの状況下」での生活、交流、まちとの関わりということは避けては通れないことである。

<杉並区及び他団体との連携による活動の拡大>

・ 本年度は2020年12月に「インディペンデント・リビング」のショート版の映画上映と監督の講演、共用品機構の星川氏の講演を合わせた企画・コーディネートをすることができた。このような事業性のある活動を提案し実現させていきたい。

<メンバーの拡大>

・ まちはく実行委員は20代～60代と幅広く協力・参加してくれているが、ここ数年はやや固定化している。まちサロなどを通して、若年層のメンバーを増やしていきたいと思う。目標としては、本年度に2～3名を一つの目標にしたい。

収支内訳書

団体名 杉並まちづくり交流協会

【収入】

費目	金額	備考
会費	24000 円	¥2000 × 12 人
まちづくり助成金	70000 円	
その他	4000 円	ワークショップ ¥500 × 8
合計	98000 円	

【支出】 ※(1)～(3)は必ず領収書を添付してください。

費用	内容	金額	合計金額
(1) 学習活動費	・資料出力費	550	550
(2) 広報活動費	・まちはくちらし印刷費 ・ポスター印刷 A3 ・まちはく参加団体紹介印刷代 ・データ作成費・出力費	53240 26180 9515 3190	81125
(3) 事務運営 ・事業実施費	・定例会会場費 ・運営事務費(用紙代・コピー代)	11000 4260	15260
(4) その他	コロナ対策	3888	3888
合計			100823

- (1) 学習活動費 : 講師謝礼、学習会資料作成費、会場使用料など
 (2) 広報活動費 : パンフレットやニュース、報告書等の作成費など
 (3) 事務運営 : 団体運営や事業実施に必要な消耗品や備品の購入費、郵送料など
 ・事業実施費
 (4) その他 : その他の支出(助成対象外経費)